

2019年新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます、皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は大阪北部地震や西日本豪雨、また立て続けに発生した台風等々、自然災害による輸送障害が非常に多く発生し、異常時が「常」であるような日々の中で、安全安定輸送を守り抜き、そして今も昼夜を問わず年末年始輸送の完遂に向け、職場でご奮闘されておられる組合員の皆様に心から敬意を表します。

2019年の年頭に当たりご挨拶申し上げます。

福知山線列車脱線事故から14年、阪神淡路大震災から24年、明石～朝霧間での触車死亡事故から18年を迎えることとなります。

昨年9月には福知山線列車事故現場が、慰霊と鎮魂の場、そして私たちが安全を誓い続けていく場である「祈りの社」として整備されました。神戸地本として絶対に風化させることなく、経験や教訓を胸に刻みながら、安全文化の構築を進めていかなければなりません。

安全については、昨日が安全だから今日も安全といった、保障されているものではなく、守るものでもなく、作るものです、この思いを組合員の皆様と再度共有しながら、妥協することなく、地道に愚直に前に進めながら、昨年4月から新たにスタートしたJR西日本グループ鉄道安全考動計画の着実な前進に向け、全組合員が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

また昨年10月24日には神戸地本結成25年を迎えることができました。今日の安定した雇用、賃金、労働条件、福利厚生など、社会的にも一定の地位を確保し、94%の組織率のうえに平和な労使関係を築いています。

しかし1987年、国鉄が倒産し7万名を超える仲間が鉄道を去る雇用不安を経てJRが発足し、その4年8ヶ月後の1991年12月、労働組合の分裂の歴史に終止符を打つべくJR西労組が結成されました。今日の我々の社会的な地位や環境は先輩諸氏の努力の結晶であり、今後もこれが当然に続く保障はなく、我々の責任ある労働運動を通じて将来の労使の健全な発展と安定した雇用と幸せを築いていかなければなりません。

西労組の地道な努力により、労働組合の使命である雇用と賃金を守ってきました、その西労組の精神と運動を継承し続けなければなりません。神戸地本では、分会役員の数約300名に対して、JNRの役員は10名を切り、わずか3%の割合となりました。どの分会も役員が若返り、手探りの状況の中で日々悩みながら活動してくれていることに感謝申し上げます。これからの5年、10年、50年と西労組をどのように発展させるのかは我々次第です。変えられるものは変える勇気を持ちながら、変えられぬものは受け入れる謙虚さを持ちながら、その時代、その時代に合った西労組神戸地本を組合員の皆様と共に考え、共に行動しながら創りたいと考えています。

さらに政治においては、4月には統一地方選挙、7月には参議院選挙が実施されます、私たちは、安部政権の暴走に歯止めをかけ、連合が目指す「働くことを軸とする安心社会」を取り戻さなければなりません。その為にも働く者の声を代弁する議員を一人でも多く当選させる必要があります。

日頃から我々の声を代弁してくれている、統一地方選挙では、兵庫県議会議員で西宮市選出の栗山雅史さん、また参議院選挙(全国比例)では、浜野よしふみさん、その他JR西労組が推薦する全ての候補者の必勝に向け、組合員各位の積極的なご協力をお願い致します。

最後に今年が組合員とご家族の皆様にとって健康で充実した1年となることをお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお祈り致します。